

鼠径ヘルニア

日帰り手術 わずか30分



高橋恭介院長

身体的、経済的負担を軽減

もの付け根(鼠径部)の筋肉のすき間から腸膜と腸が飛び出してしまふ鼠径ヘルニア(脱腸)に、近年日帰り手術が可能になった。入院せずに済むのでデスクワーク程度なら翌日から復帰可能。患者の身体的、経済的負担が軽減されるなど利点が多い。

この病気は、子供の頃は先天性で、成人は加齢で筋力が弱くなることで起きる。重い荷物を持ったたり、雪かきなどで腹に力がかかれば後述三〜四時間で帰宅できます」と話す。

成人の場合、患部を四つ切り、飛び出た腹膜と腸を元に戻し、ポリプロピレン製のメッシュ(網目)シート(約10×4方)を入れてふさぎ、溶ける糸で縫うという。

メッシュは透明な滅菌フィルムを張った上から入れるなど「感染対策に細心の注意を払っている」という。

鼠径ヘルニアの日帰り手術。感染に注意を払いながらメッシュシートを埋め込む。所要時間は約30分だ。

時に起きやすい。治療は手術しかない。

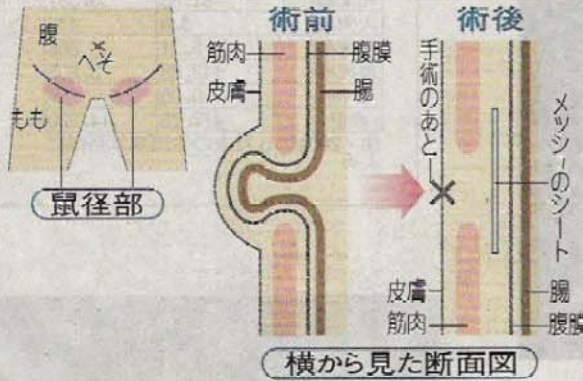
●4時間で帰宅可

日帰り手術を行っている施設はまだ数少ない。JRタワー内にある、みやまき外科・ヘルニアクリニック(札幌市中央区)の高橋恭介院長は、日帰りの手術について「手術は約三十分。麻酔が完全に切れて問題なければ術後三〜四時間で帰宅できます」と話す。

●感染対策を徹底

手術翌日からシャワーも可能で、同院では、一週間後と三〜四週間後の二回、外来で傷を点検、帰宅後も二十四時間態勢で電話相談に当たっている。感染対策の徹底は、手術の時間短縮に繋がっている。通常では、手術の時間は約一時間、入院期間は二泊入されている。

鼠径ヘルニア(脱腸)



横から見た断面図

三日から一週間程度。同院によると、この日帰り手術法は日本では二年前から導入されている。

手術後、院内の回復室で休んでいた男性会社員(30)は「手術をしたと思うていたが、なかなか休みが取れなかった」と話した。男性は宮崎院長に電子メールで疑問点を聞いた上で、手術の一週間前に来院して術前の検査を受けたという。

同院によると、費用は健康保険の三割負担で五万五千円前後。心臓病など重い病気になる人は受けられない。昨年四月から約二百五十例の鼠径ヘルニア手術を行った宮崎院長は「二人の患者との付き合いは短い。一医師が最後まで担当する安心感もある」と語る。